

授業改善の手引 中学校第2学年英語

1 調査結果

(1) 分布状況



平均正答数は8.2問で、正答数4問～6問の割合が高いことから、基礎的な内容を確実に定着させる指導のみならず、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」を一体的に育成するための言語活動を通した指導を一層推進する必要があります。

(2) 領域等の正答率

領域等	正答率()はR6	観点等	正答率()はR6
聞くこと (6問)	42.2% (60.9%)	知識・技能 (11問)	41.0% (46.4%)
読むこと (6問)	43.5% (44.4%)	思考・判断・表現 (11問)	33.5% (42.3%)
書くこと (10問)	30.5% (33.5%)		

令和6年度と比較し、全ての観点・領域で平均正答率が低下しました。特に「聞くこと」は18.7ポイントと大幅に減少しており、早急な指導改善が必要です。デジタル教科書や音声データ等を活用し、生徒が各自のペースで語句や表現などを確認したり、聞き取れなかった語句や表現を確認したりできるようにすることが必要です。

「読むこと」は、文章の概要や要点を捉えることについて、依然として課題が継続しています。段落内の文と文との関係を読み取りながら、各段落の主な内容を捉えたり、文章全体を通して読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何かを判断して捉えたりすることが必要です。

「書くこと」は、特に文法指導について、形や構造の習得にとどまらず、文法がコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、コミュニケーションの目的を達成する上で文法事項を使うことの必要性や有用性を生徒が実感することが求められます。その上で、文法知識を活用した言語活動を繰り返し行い、規則性や構造への気づきを促すなど、言語活動と結び付けた指導を充実させることができます。

(3) 結果概要

ア [聞くこと] の領域について (授業実践アイディア例 参照)

- 大問1は、文の基本的なイントネーションや区切りなど、音声の特徴を踏まえて1回で「情報を正確に聞き取る」問題でした。しかし、正答率は50.2%にとどまり、課題が見られました。
- 大問2は、「対話の概要を捉え、適切な応答を選ぶことができるか」を問う問題で、大問1に続いて1回で聞き取る形式でした。しかし、正答率は39.4%と低く、課題が見られました。

イ [読むこと] の領域について

- 「日常的な話題について、短い文章を読み、情報を正確に読み取ることができるかどうか」を問う問題では正答率が65.1%で概ね良好でした。
- 「短い文章の概要（文章全体の大まかな内容）を捉える」問題は正答率が29.5%であり、昨年度の調査から改善が見られるものの、課題が継続しています。

ウ [書くこと] の領域について

- 「How many ではじまる疑問文の語順を理解し、正確に書く」問題は正答率が64.6%で概ね良好でした。
- 大問11は昨年度に引き続きの出題ですが、昨年度よりも3つの採点基準全てにおいて改善が見られました。また、無解答率も昨年度より改善が見られました (R6 44.9%→R7 41.2%)。
- 「社会的な話題に関して読んだことについて、自分の考えを書くことができるかどうか」を問う問題では、正答率が19.8%であり、課題が見られました。(授業実践アイディア例 参照)

(4) 令和6年度との比較問題等の状況 (○改善、◇改善傾向、●課題が継続、△▼はR6県学調との比較により増減を表す)

通し番号	正答率	比較問題	比較(R6県)	調査のねらい
● 1～2	50.2%	1	▼28.9(79.1)	情報を正確に聞き取ることができる
● 3～4	39.4%	2	▼22.7(62.1)	対話の概要を捉えて、適切な応答を選ぶことができる
◇ 9	45.7%	6 (2)	△19.0(26.7)	文と文との関係を正確に読み取ることができる
● 11	29.5%	7	△ 8.2(21.3)	短い文章の概要を捉えることができる

小問正答グラフ